

## 8. 身体不活動と社会経済的要因との関連：NIPPON DATA2010

研究協力者	炭本 佑佳	(同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科 大学院生)
研究協力者	柳田 昌彦	(同志社大学スポーツ健康科学部 教授)
研究分担者	奥田 奈賀子	(京都府立大学大学院生命環境科学研究科健康科学研究室 教授)
研究分担者	西 信雄	(医薬基盤・健康・栄養研究所国際栄養情報センター センター長)
研究協力者	中村 好一	(自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 教授)
研究協力者	宮松 直美	(滋賀医科大学看護学科臨床看護学講座 教授)
研究協力者	中村 幸志	(琉球大学大学院医学研究科 衛生学・公衆衛生学講座 教授)
研究協力者	宮川 尚子	(慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 特任助教)
研究協力者	宮地 元彦	(早稲田大学スポーツ科学学術院 教授)
研究分担者	門田 文	(滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 准教授)
研究分担者	大久保 孝義	(帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授)
研究分担者	岡村 智教	(慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 教授)
顧問	上島 弘嗣	(滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター 特任教授)
研究分担者	岡山 明	(生活習慣病予防研究センター 代表)
研究代表者	三浦 克之	(滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授)

NIPPON DATA2010 研究グループ

### 【目的】

日本人の代表集団における、1 日の総身体活動量の実態の把握、身体不活動と社会経済的要因との関連について検討する。

### 【方法】

平成 22 年国民健康・栄養調査参加者で、NIPPON DATA2010 の参加に同意し、同年の国民生活基礎調査と突合した 2,807 人のうち健康上の理由で運動ができない者、90 歳以上、データ欠損を除いた 2,609 を対象とした。Framingham Study で用いられている physical activity index (PAI) を身体活動量の指標として、対象者から聴き取った 1 日の強度別身体活動時間から算出した。PAI を性・年齢階級別に三分位に分け、第 1 三分位を「身体不活動」と定義づけし、従属変数とした。独立変数を社会経済的要因(就業状況、教育歴、居住状況、等価平均支出)、交絡因子(飲酒習慣、喫煙習慣、脳卒中/心筋梗塞の既往歴)として、「身体不活動」に対するオッズ比(OR)および 95%信頼区間を、多重ロジスティック回帰分析を用いて算出した。

### 【結果】

性・年齢階級別に PAI の中央値をみると、男性では 30～39 歳が 38.6 と最も高く、女性では 40～49 歳が 38.0 と最も高かった。PAI は、年齢が上がるにつれて減少し、80～89 歳では男性が 30.8、

女性が 32.9 で男女とも最も低かった。身体不活動と社会経済的要因との関連については、全ての性・年齢層で非就労者は就労者に比べて身体不活動に対する OR が有意に高かった〔60 歳未満男性 3.38 (1.43–7.99)、60 歳未満女性 1.46 (1.04–2.04)、60 歳以上男性 2.17 (1.51–3.14)、60 歳以上女性 1.72 (1.15–2.57)〕。居住状況については、配偶者と同居していない 60 歳以上男性、60 歳未満女性は、配偶者と同居している者に比べて身体不活動に対する OR が有意に高かった〔(60 歳以上男性 1.63 (1.03–2.56)、60 歳未満女性 2.01 (1.37–2.94))〕。

#### 【結論】

日本人を代表する一般集団の PAI の分布は、男性では 30～39 歳、女性では 40～49 歳で最高値となり、年齢階級が上がるにつれて低下していき、男女ともに 80～89 歳が最低値となることが確認された。また、身体不活動と社会経済的要因との関連については、就業状況において「非就労」が性年齢を問わず身体不活動と有意に関連していた。さらに、居住状況に関しては、「配偶者と同居していないこと」が身体不活動に関連していたが、性・年齢によって異なることが明らかとなった。

***PLoS One*. 2021 Jul 15. doi: 10.1371/journal.pone.**